

千里シリーズ2020

松本誠司 復活V 関東軍へ痛烈倍返し!

田中宏典（レギュラーシーズン優勝）

V S

松本誠司（ワイルドカード選出）

肩痛で昨期を全休し再起をかけた2020シーズンで

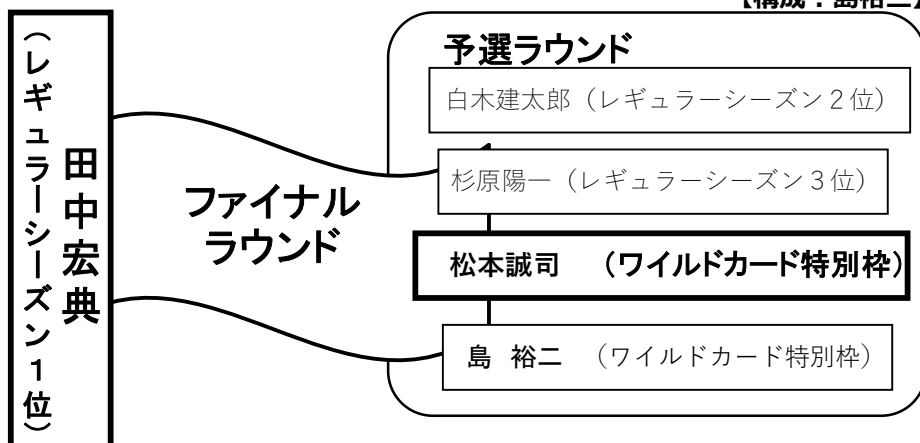
松本誠司選手が千里シリーズ9年ぶりに制覇—

新型コロナウイルスの影響で途中に3ヶ月に及ぶ中断を余儀なくされた2020年。その掉尾を飾るWBF千里シリーズが10月24日、開催された。今回は主会場となる関東軍本拠地の高田馬場グランドボウルとサテライト会場となるVEGA曽根ボウルをZOOMで繋げると言う異例のシリーズに。コロナ禍が影響したものの、令和式の複数会場同時開催スタイルとして来期実施の可能性を試す機会ともなった。

レギュラーステージの全日程でポイントを獲得し初優勝した田中宏典選手への挑戦権を賭けて行なわれる予選ラウンドは計4名で行われた。第2ゲームの終盤でターキーを記録、昨期全休の影響を払拭した松本誠司選手が挑戦権を獲得。

続いて、田中VS松本の東西対決となった3勝先取方式のファイナルラウンドでは互角の試合を展開し2年連続で第5戦へ突入。2年ぶりのシリーズ制覇と関東軍3連覇を狙った田中選手に松本誠司選手が競り勝ち、9年ぶり9度目の栄冠に輝いた。

【構成：島裕二】



2020 WBF Championship “Senri-Series”

●予選ラウンド

松本誠司選手ワイルドカードからファイナル進出！

**レギュラーシーズンを初制覇し自身2年ぶりの千里シリーズ優勝と関東軍3連覇をかけて
待ち構える田中宏典選手への挑戦権を獲得すべく4名の選手が参加。**

第1ゲーム。関東では予選ラウンドを通過し2年ぶりの関東軍対決に持ち込みたい白木選手、関西でも各選手が前半からスコアメイクに苦しむ。後半になってマークが出るようになり10フレでは全選手がスペア。それでもハンデ込最高点は杉原選手と松本誠司選手の152。第2ゲームで勝負の様相を呈してきた。

第2ゲーム。白木選手が終盤にダブルを記録。それをZOOMで確認した曾根会場では白木選手がラウンド制覇する、との空気に包まれる。9フレで白木選手がストライクをマークすると「高田馬場会場で繰り上げられる千里シリーズをZOOMで見ながら猛省会！」との声。関西でも松本誠司選手と島裕二選手が9フレでストライク。島裕二選手が最後に失速するも松本誠司選手はターキー。そして白木選手は痛恨のスプリット。ここで昨期を棒に振った松本誠司選手がワイルドカード特別枠からのラウンド通過。関東軍黄金時代確立を目指す田中選手に古豪復活を狙う松本誠司選手がファイナルで激突することに。関東軍がWBFの覇権を握るか関西軍

予選ラウンド結果

選手名	G	素	競	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	0									
白木健太郎	1	153	137	8	⑩	1	▲	▲	6	2	8	▲	7	▲	9	▲	G	9	9	▲	9		
杉原陽一	1	164	152	▲	8	-	7	2	9	▲	9	▲	▲	▲	⑥	3	9	▲	9	▲	7		
松本誠司	1	147	152	7	1	7	2	▲	⑩	1	6	▲	7	2	9	▲	8	▲	▲	8	▲		
島 裕二	1	95	142	G	1	1	-	G	7	7	-	1	6	▲	5	4	9	▲	9	-	9	▲	6
島 裕二	2	129	176	9	-	9	▲	9	▲	7	▲	9	-	9	-	4	▲	6	3	▲	6	-	
白木健太郎	2	166	150	▲	⑦	▲	⑦	2	8	▲	9	-	▲	⑩	▲	▲	▲	▲	▲	⑥	2		
杉原陽一	2	151	139	5	▲	⑥	2	8	▲	8	▲	8	▲	⑦	2	8	-	9	▲	9	▲	9	▲
松本誠司	2	181	186	⑦	2	9	-	▲	7	2	9	▲	9	▲	9	▲	9	▲	▲	▲	▲	8	

※ 松本誠司選手がファイナルステージ進出

◆ファイナルラウンド第1戦◆

松本誠司選手 予選の勢い持続し先勝 !

レギュラーシーズンを初めて制覇した田中選手がダブル・スペア、予選を勝ち上がり久々の千里シリーズ登場の松本選手が2スペ・ストライクと、両者決勝にふさわしい好発進。と思われた矢先、田中選手が4フレでまさかのガター。老獪な松本選手がこのスキを逃すはずもなくストライクを重ねてダブル。直後に痛恨のビッグ4スプリットとなるものの終盤にもマークを重ねるとダブルで仕上げて先手を取った。田中選手も5フレから立て直しを図るもガターの動揺隠せず勝負どころの8フレをオープンとし失速。松本選手がハンデ込204を記録し大舞台本番で復調をアピールしての白星スタート。ファイナルラウンドの盛り上がりを感じさせるゲームとなった。

1												
田中宏典 (シーズン優勝)	*	*	9 /	G 9	7 /	9 /	*	6 1	*	6 /	8	0
	29	49	59	68	87	107	124	131	151	169		169
ハンデ込み 得点差⇒	↑5	↑5										HDCP
			↓11	↓20	↓9	↓8	↓11	↓24	↓24	↓35	1勝	競技点
松本誠司 (ワイルドカード)	9 /	9 /	*	*	s6 2	9 /	9 /	*	9 /	*	*	5
	19	39	65	83	91	110	130	150	170	199		204

◆ファイナルラウンド第2戦◆

田中選手パワー披露 王者の意地でタイ !

1フレで両選手がストライク発進するも2フレで対照的な結果に。田中選手は3-10のベビースプリットを巧くカバーしたのに対し、松本選手は10ピンをカバーできず痛恨オープン。ここから逃げる田中選手、追う松本選手の構図に。しかし、プレッシャーもなんのその、田中選手は3フレ以降もすべてマークし、一度も振り返ることなく205点でフィニッシュ。第1戦ではまだ投球のブレが見られたがここはレーンに上手くアジャストし、ウォーミングアップ完了とばかりにパワーボウリングを披露。すぐにタイに戻せた安堵からか笑顔も見られた。松本選手はスペア後の5フレで5ピンでのカウントダウンと、勝負どころでのスプリットが響いた。僅かなミスが明暗を分けるハイレベルな展開となってきた。

[illegible]

◆ファイナルラウンド第3戦◆

田中選手パワー炸裂 関東軍黄金時代へ王手 ！

どちらが王手をかけるのか。予選勝ち上がりの松本選手は長期戦回避のためにもここは確実に取っておきたい第3戦。

1 フレ、ストライクでもおかしくない投球がまさかのスプリットスタートとなった田中選手。2フレからダブルとするも4フレでファイナルラウンド2度目のガター。第1戦の黒星がよぎるところだが、関東軍エースは心折れることなくスペアカバー。その後はさらにダブルを2回決めてこのゲームで7ストライクして松本選手を圧倒した。田中選手のダブルを連発する光景を見た関西会場では「からだすこやか茶〜ダブル〜」と指原莉乃をモノマネしたダジャレで応戦するのが精一杯だった。予選ラウンドを含めて5ゲーム目となった松本選手にはやはり疲労の色が。シーズン優勝の田中選手が勢いに乗って王手、若さと体力温存の分有利とも見られるが、本日2度目のガターやヘッドピンを外すなどブレ球再発のマイナス材料も。次戦果たして？

3

◆ファイナルラウンド第4戦◆

松本誠司選手 やられたらやりかえす 逆王手 !

前戦の不安が現実。王手をかけている田中選手だったが、スペアスタートするも2フレでカウント4ピン、3フレオープンと投球のブレが修正できず。ジワリと優勝のプレッシャーが襲う。一方、後がない松本選手はオープンスタートながらその後手堅くスペアを重ね、僅差ながら中盤までリードする手に汗握る展開。勝負どころの6フレ、田中選手痛恨のスペアミスで松本選手が2マークのリードを広げる。ファウンデーションフレームの9フレもオープンとした田中選手は10フレダブルとするも及ばず。1年間の休場の中で到達した悟りの境地「脱力ボウリング」を披露した松本選手が「やられたらやりかえす」ゲーム展開に持ち込み2勝2敗のタイ、優勝へ逆王手をかけた。両者がたっぷり四つに組んだまま最終戦へ持ち込まれ、東京と大阪両会場はともにボルテージが高まってきた。

4													
	田中宏典 (シーズン優勝)	8 / 14	4 / 33	9 - 42	* 60	s7 1 68	9 / 86	8 - 94	* 113	9 - 122	* 151	* 151	0
ハンデ込み 得点差⇒				↓9	↓10	↓21	↓12	↓24	↓25	↓36	↓37	2勝	HDCP 競技点
松本誠司 (ワイルドカード)	7 2 9	8 / 28	9 / 46	8 / 65	9 / 84	9 - 93	5 / 113	* 133	7 / 153	* 183	* 188	5	188

◆ファイナルラウンド第5戦◆

松本誠司選手復活劇完成 関東軍に 1000 倍返し !

東西雌雄を決す運命の最終戦。難しいスペアをカバーした直後の2フレで本日3度目のガターが田中選手を襲う。ここを松本選手がつけ込むか思いきやオープンとお付き合い。4フレでは、ヘッドピン外しからのスペアミスとした田中選手とは対照的に、松本選手は同じミスは繰り返さないぞと10ピンを着実にカバーしここで1マーク差とした。5フレ6フレと両選手ともにダブルを披露。押せ押せの関西軍は再び指原莉乃のモノマネで盛り上がる。緊張クライマックスの7フレターキーチャレンジ、幾度もの修羅場をぐり抜けてきた松本選手がゲットに対し、田中選手が9本からのスペアミスと自滅。東京主会場の苦悶のため息がZoom越しにも漏れ伝わった。田中選手はその後ダブルでプレッシャーをかけるも松本選手の9フレでのストライクで勝負あり。

この結果、松本選手が2011年以来9年ぶりに千里シリーズを制覇した。レギュラーシーズン7戦中6戦で1着を獲得し、千里シリーズ3連覇を目指した関東軍との激闘は、休場から

不死鳥のごとく生還を果たした「ミスターWBF」松本選手が土壇場で大逆転勝利。半沢直樹を彷彿とさせる 1000 倍返しを果たした関西軍は反省会会場へと消えていった。予選、決勝と後一步届かなかった関東軍も現時点の持てる力を出し切った、悔いなしと笑顔で会場を後にした。

5												
田中宏典 (シーズン優勝)	7 /	G /	9 /	7 2	*	*	9 -	*	*	9 -		0
	10	29	46	55	84	103	112	141	160	169		169
ハンデ込み 得点差⇒	↓ 14	↓ 4	↓ 6	↓ 17	↓ 18	↓ 27	↓ 38	↓ 29	↓ 30	↓ 39	3 勝	HDCP 競技点
松本誠司 (ワイルドカード)	8 /	9 -	9 /	9 /	*	*	*	8 /	*	9 /	8	5
	19	28	47	67	97	125	145	165	185	203		208
												

千里シリーズ過去の戦績

※1	1989	松本誠司	4 (○○○●○)	1	松本昌士	
	1990	奥山満夫	4 (●●●○○○)	3	下永義久	
	1991	松本誠司	4 (○○●○○)	1	島裕二	
	1992	松本誠司	4 (○○○○)	0	島裕二	
	1993	松本誠司	4 (○○○○)	0	田中寿美子	
	1994	松本誠司	4 (●●●○○)	2	島和男	
	1995	白木建太郎	4 (●○○○○)	1	田中久	
	1996	野村正明	4 (○○●●△○○)	3	松本誠司	
	1997	杉原陽一	4 (○○○○)	0	松本香代	
	1998	松本誠司	4 (○○●●○○)	2	白木建太郎	
	1999	松本誠司	4 (○○○○)	0	杉原陽一	
	2000	白木建太郎	4 (○○○○)	0	岩田修一	
	2001	杉原陽一	4 (○○●●●○○)	3	ロバート・K	
	2002	白木建太郎	4 (●●○○○●○)	3	松本誠司	
※2	2003	松本昌士	3 (○●○○)	1	松本誠司	◆
	2004	◆ 白木建太郎	3 (○●●○△○)	2	松本昌士	◆
	2005	松本昌士	3 (○○○)	0	白木建太郎	◆
	2006	岩田修一	3 (●●○○○)	2	松本誠司	◆
	2007	◆ 杉原陽一	3 (○●○○○)	2	奥山満夫	◆
	2008	奥山満夫	3 (○●○○)	1	島和男.com	◆
	2009	◆ 杉原陽一	3 (●○○○)	1	奥山満夫	◆
	2010	白木建太郎	3 (○○●○○)	1	杉原陽一	◆
	2011	◆ 松本誠司	3 (○○○)	0	藤原聡	◆
	2012	馬場毅	3 (●●○○○)	2	白木建太郎	◆
	2013	杉原陽一	3 (○●○○)	1	馬場毅	◆
	2014	杉原陽一	3 (○●●○△○)	2	馬場毅	◆
	2015	城戸秀行	3 (○○○)	0	白木建太郎	◆
	2016	杉原陽一	3 (●○○○)	1	松本誠司	◆
	2017	◆ 島和男.com	3 (●○○●○)	2	ジョー・タカミ	◆
	2018	田中宏典	3 (○●○○)	1	白木建太郎	◆
	2019	白木建太郎	3 (○●○○○)	2	ジョー・タカミ	◆
	2020	松本誠司	3 (○●●○○)	2	田中宏典	◆

※1 島裕二が前後期制覇をしているため、総合優勝は島裕二と記録。特別企画の「千里G1クライマックス」として開催。

※2 2003年以降、千里シリーズの実施方式が変更。3勝先取で優勝。

◆はレギュラーシーズン優勝

激闘を終えて…

松本誠司 3(○●●○○)2 田中宏典



On Line Game

9年ぶり優勝の松本誠司選手

昨年は50肩でシーズンを棒に振り、復帰後も視力や筋力など老化著しく、思うようなボウリングができなかった。夏場からダイエットに取り組んだせいか、秋以降は体が軽くなり、従来の投球ができるようになってきた。それでも予選を勝ち進めるとは思ってもおらずラッキーだった。

棚ぼた程度に考え決勝戦に挑めたのが、結果として良かったのかも知れない。

優勝したことは嬉しいが、来年は実力を伴って誰もが認める形でこの場で君臨したいと思う。

シリーズ敗退の田中選手

シーズン初の1着で迎えた千里シリーズでしたが、このところの練習不足が祟り、スピア率も下がってきていたのですが、ここ一番のスピアミスが最後まで響く結果となりました。松本選手は最後まで緻密なボウリングで攻め続けられ、素晴らしかったと思います。

来季は、改めてシーズン1着とシリーズ優勝を目指し、できる限り練習も行っていきたいです。

また、リモート開催も大変ありがたかったですが、来季はぜひとも大阪で皆さんと一緒にボウリングができることを願っています。松本選手、本当におめでとうございます！

コラム:史上初・東西同時中継開催顛末

新型コロナウイルス感染拡大を受けて、今年の千里シリーズはメイン会場となる東京・高田馬場グラウンドボウルと大阪・VEGA 曽根ボウルを Zoom によるネットミーティングで繋いで同時に投げると、かつて無いスタイルで開催された。両会場ではそれぞれレーン撮影用、スコア撮影用および実況用と3台ずつカメラが設置されて、傍から見ると少し異様な雰囲気だったのではないと思われる。

なにぶん初の試みだったせいか、序盤は会場間でやりとりがうまく噛み合わなかった。東京会場の予選スコアが何点かわからず、松本誠司選手は2ゲームが終了するまですっかり敗退したものだと思いついていたら実は勝ち上がっていた、というありさまだった。

その後上記カメラ3台×2体制が確立して中継のコツをつかんでくると、双方のプレイを見てコメントしたりストライクを祝福する余裕も出てきた。開催前はうまくいか不安も少しあったが、慣れてくるとそれなりに一緒にボウリングをしている感覚も得られるものだ。同じく Zoom で東西会場を繋ぎながら開催された反省会の席上でも「ぜひ来季以降レギュラーシーズンでもやってみたい」という意見が出るほどで、WBF にも「ニューノーマル」の波が押し寄せていることを実感した。

一方で以下のような課題も明らかになった。

- Zoom 無料版における時間制限

無料版 Zoom は 40 分でミーティングが自動終了してしまう。そこで1ゲーム終了するといった全員退出して再度同じチャンネルでミーティングを開始するようにしたが、3台ずつのカメラで退出→参加するのは若干面倒ではあった。

- 誰も写真を撮ってなかった

参加者が持ち込んだスマホやタブレットをほとんど中継機材に使ってしまい、各自その調整に必死になっていたせいか、記事を書く段になって確認するとなんと誰も写真を撮っていなかった。1枚も。今回は決勝進出者も東西1名ずつとなったので、恒例の握手写真を撮影するタイミングもなかったのが気が付かなかったようだ。せめて Zoom を録画しておけばよかった。

- 世界同時中継を見据えた開催時刻

全世界から同時視聴が可能となったことで、米国からも視聴者が(1名)殺到した千里シリーズであった。今後巨額の放映権料が動くことを考慮すると、欧米のゴールデンタイムも意識した開催時刻を設定する必要に迫られそうだ。

なお本記事は主担当の島裕二選手(大阪会場)以下、白木選手(主会場)、田中選手(コメント)、松本誠司選手(編集)、杉原(本コラム)の5名による共同執筆という、これもあまり例のない体制で制作された。

(右写真:後日 Zoom で当日の写真がなかったことを反省する面々)

